

**TEIJIN**  
Human Chemistry, Human Solutions

60<sup>TH</sup>  
ANNIVERSARY

Teijin Scholarship Foundation

帝人奨学会  
60周年記念シンポジウム  
公益財団法人帝人奨学会

公益財団法人帝人奨学会

〒100-8585  
東京都千代田区霞が関3-2-1 霞が関コモンゲート西館30F  
TEL 03-3506-4424 FAX 03-3506-4499  
E-mail kumura@teijin.co.jp  
HP <http://www.teijin.co.jp/eco/scholarship/index.html>

# 帝人奨学会60周年を迎えて



公益財団法人 帝人奨学会  
理事長 大八木 成男

本年、帝人奨学会は、関係各位の皆様のお力添えにより、創立60周年を迎えることができました。長年に亘り、この奨学生制度を続けてこられたのも、歴代の理事の諸先生方をはじめ各大学の関係者の方々のご支援、ご指導の賜であり、ここに改めて深く感謝の意を表する次第です。また、本奨学会を巢立った研究者・技術者の方々が、産官学の多様な分野において、日本のみならずグローバルに活躍され、それぞれの研究・学術分野にて素晴らしい貢献をあげられていることに敬意を表したく存じます。

本奨学会は、1953年に帝人株式会社創立35周年を記念し、創業メンバーであり「日本化繊工業の父」と呼ばれた久村清太(くむらせい太)氏の名を冠した「帝人奨学会・久村奨学生制度」を創立したのが起源です。翌年には財団法人として改組、さらに2011年には公益財団法人へ移行し今日に至っており、この60年

間で合計1542名の理工系学生に対する支援を積み重ね、現在では、企業が設立・運営する最も歴史と伝統のある奨学生制度の一つとして認知されています。

本奨学生制度の名前の由来である久村氏は、今から100年程前に、当時の日本では未知の世界であった化学繊維(レーヨン)の研究に没頭し、独創的な技術により初めてレーヨンの製造技術を確認し、現在の合成繊維工業の発展の礎を築いた技術者です。本奨学会が創立された当時、日本は戦後の復興に産業界をあげて取り組んでいた時代でした。まだまだ混迷と希望が交錯していた時代の中で、帝人は、久村氏の創業の精神を継承し、科学技術の発展と文化創造に貢献する若き科学技術者の育成を目的に本奨学生制度を創立し、以降その精神を現在まで脈々と引き継いできました。

本奨学会は、今後とも将来社会に貢献しうる若者たちに支援

を続け、それを通じて社会の発展に貢献してまいります。そのことは「社会とともに成長します」「人々のQuality of Lifeを高めます」という帝人の企業理念とも合致するところでは、2010年度からは、奨学金の対象を日本国内だけではなく、中国にも拡大しました。2012年からは、中国の大学や専門の異なる奨学生同士の相互交流を図るため、北京・上海で「中国奨学金 認定式・交流会」を開催するなど、創設時に掲げた「社会に貢献し得る有為の人財育成」という理念に沿った様々な支援施策を実施しています。

最後となりましたが、帝人奨学会は、いつの時代も「志ある研究技術者」の一番の応援団でありたいと考えています。今後とも、日本および世界の科学技術の発展と若き科学技術者の育成のために、関係各位のさらなるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## ●シンポジウムプログラム

- 13:30 …………… 理事長あいさつ 大八木 成男
- 13:40 …………… ご来賓あいさつ 戸谷 一夫様 文部科学省 大臣官房長
- 14:00 …………… 特別講演 根岸 英一様 2010年ノーベル化学賞受賞 米パデュー大学特別教授
- 14:45-15:05 … (休憩)
- 15:05 …………… パネルディスカッション
- テーマ  
イノベーションが未来を変える  
世界をリードする先端科学技術者の育成
- 16:40 …………… 終了

( 特別講演・パネリスト )



根岸 英一様 米国パデュー大学 特別教授 第5回生(1957年)帝人奨学生  
1958年東京大学工学部応用化学科卒、帝人(株)入社。60年帝人(株)を退職しフルブライト奨学生として米ペンシルベニア大学に留学、63年同大学院博士課程修了、Ph.D取得。69年帝人(株)を退社、米パデュー大学、ハーバート・ブラウン教授の研究室へ。79年パデュー大学教授。99年から同特別教授。有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリングの業績で2010年ノーベル化学賞受賞。同年文化勲章も受章。帝人グループ名誉フェロー。

( モデレータ )



横山 広美様 東京大学大学院 准教授  
2004年、東京理科大学大学院理工学研究科物理学専攻満期終了。同年9月博士(理学)。2007年より東京大学大学院理学系研究科准教授、兼広報室副室長。専門は科学コミュニケーション。日本学術会議若手アカデミー委員会委員。2007年科学ジャーナリスト賞受賞。東京工業大学研究員、総合研究大学院大学を経て、2009年女子中高生理系進学支援事業・東京大学代表、2010年科学コミュニケーション研究会設立、初代代表。

( パネリスト )



澤本 光男様 京都大学大学院 教授 帝人奨学会 評議員  
1979年京都大学大学院工学研究科修了(工学博士)。1996年より京都大学院工学研究科高分子専攻教授。1999年日本化学会学術賞受賞。2008年高分子学会会長(2010年まで)。2012年英国王立化学会 MacroGroup UK Medal for Outstanding Achievement in Polymer Science 受賞。2013年より日本化学会理事も務める。帝人奨学会評議員。



川合 眞紀様 理化学研究所 理事 東京大学大学院 教授  
1980年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了(理学博士)、1985年理化学研究所研究員、1988年東京工業大学客員教授。1991年理化学研究所主任研究員、埼玉大学大学院客員教授、東京理科大学客員教授、学習院大学客員教授を兼務。2004年東京大学大学院新領域創成科学研究科教授、2010年理化学研究所理事。教育再生実行会議有識者委員。



吉田 直紀様 東京大学大学院 教授 第45回生(1997年)帝人奨学生  
1996年東京大学工学部卒業。マックスプランク宇宙物理学研究所博士課程修了(DN)。ハーバード大学、名古屋大学、東京大学数物連携宇宙研究機構を経て、2012年より東京大学大学院理学系研究科教授。2008年国際純粋応用物理連合若手科学者賞受賞。専門は宇宙物理学。スーパーコンピュータを用いて宇宙の進化や暗黒物質の謎に挑む。著書に「宇宙137億年解読」(東京大学出版会)や「宇宙で最初の星はどのように生まれたのか」(宝島社新書)がある。



近藤 史郎様 帝人グループフェロー  
1980年東京工業大学大学院総合理工学研究科修了、1980年帝人(株)入社。2004年帝人ファーマ(株)医薬開発研究所長。2009年同社帝人グループフェロー、近藤研究室室長。高尿酸血症治療剤として、世界で約40年ぶりとなる新薬「フェブキソスタット」の創製に成功。2012年公益社団法人日本薬学会「創薬科学賞」および文部科学大臣表彰「科学技術賞」受賞。

## 帝人奨学会の概況

### ●現況

設立	昭和28(1953)年6月17日
認可時期	昭和29(1954)年7月8日
公益財団法人への移行	平成23(2011)年10月12日
代表者(理事長)	大八木 成男(帝人株式会社代表取締役社長執行役員 CEO)
財産	約19億円
事業内容	奨学金の貸与および給付
事業目的	この法人は、国内外の優秀学生に対して育英上必要な事業を行い、将来社会に貢献し得る有為の人材の育成並びに学術の研究発展を図ることを目的とする。 (1)国内外の優秀学生に対する学資金としての「帝人久村奨学金」の貸与又は給付 (2)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### ●沿革

- 昭和28(1953)年 ■帝人株式会社の創業メンバーである久村清太(くむらせい太)氏の功績を讃え、帝人株式会社設立35周年記念事業として、帝人久村奨学生制度を創設。
- 昭和29(1954)年 ■『財団法人帝人奨学会』が設立される。(主務官庁：文部省)
- 平成17(2005)年 ■日本で就学する外国人留学生への奨学金給付を開始
- 平成22(2010)年 ■帝人久村奨学生5回生(1957年)である、根岸英一氏(米バドュー大学特別教授)が、ノーベル化学賞を受賞。  
■中国奨学金制度を設立(毎年、北京・清華・復旦・上海交通大学の4大学計36名に各8,000円を給付)。
- 平成23(2011)年 ■帝人久村奨学生の数が、延べ1,500名を超える。  
■内閣総理大臣の認定を受け、『公益財団法人帝人奨学会』として新たなスタートを切る。
- 平成25(2013)年 ■帝人奨学会が創設60周年を迎える。



中国奨学金：認定式の様子

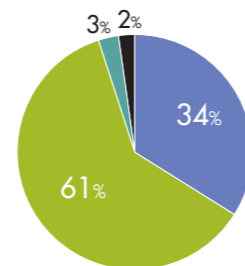
### ●帝人久村奨学生の進路

■帝人久村奨学生データ(2013年9月1日現在)

帝人久村奨学生：1,542名

■奨学生の主な進路(抜粋・順不同)

(独)理化学研究所、(独)産業技術総合研究所、高エネルギー加速器研究機構、自然科学研究機構、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、国立医薬品食品衛生研究所、国立感染症研究所、国立循環器病研究センター、経済産業省、厚生労働省、農林水産省、文部科学省、特許庁、マックスプランク科学研究所(ドイツ)、欧州原子核研究機構(スイス)等。その他国内外の国公立・私立大学教授職多数、民間企業研究職多数等。



奨学生の進路先

- 大学・政府等研究機関就職による返還免除…531人
- 民間企業等…934人
- 現役奨学生…40人
- その他…37人

## 帝人久村奨学生制度の由来について



くむら せい太  
久村 清太  
(1880-1951)

帝人奨学会は、1953年に帝人創立35周年を記念して創設された「帝人久村奨学生制度」に端を発していますが、この「久村奨学生制度」の名称は、その生涯を人造絹糸(レーヨン)の研究に費やし、日本で初めてレーヨンの製造技術を独自に確立した帝人創業メンバーの一人である久村清太氏に由来しています。ここでは久村清太氏の功績とその生涯についてご紹介いたします。

久村清太氏  
略歴

明治13(1880)年	10月3日、山形県酒田市に生まれる。
明治36(1903)年	第二高等学校を卒業。同年東京帝国大学応用化学科へ入学。
明治40(1907)年	東京レザー合資会社を設立。
大正7(1918)年	海外技術の導入のため、11ヵ月間洋行。その後も大正10年(1921年)に13ヵ月間、昭和3年(1931)年に7ヵ月間、欧州・米国を中心に計13ヵ国を洋行するなど先進技術の導入に力を注いだ。
昭和3(1928)年	「ビスコース式」人造絹糸の工業化の功により、藍綬褒賞を授与される。
昭和9(1934)年	帝国人造絹糸株式会社取締役社長に就任。
昭和20(1945)年	同社取締役会長に就任。
昭和26(1951)年	9月1日死去。享年70歳。従五位勲四等に叙せられる。

### 「日本化繊工業の父」と呼ばれた久村清太

明治13(1880)年10月3日、山形県酒田市生まれ。庄内中学から旧制二高、24歳で東京帝国大学工学部応用化学科へ進学するも中退。在学中より研究を進めたレザークロスの特許を取得し、明治41(1908)年、29歳で東レザー技師長に就任しました。これ以降もレーヨン製造の研究に精魂をかたむけ、その生涯をわが国繊維産業の発展に捧げることとなりました。

大正7(1918)年5月には、海外技術の導入のため欧州・米国を視察。11ヵ月の長期滞在のすえ、多数の技術を持ち帰りました。その後も欧州・米国を中心とする2度の海外長期出張により、久村清太は海外の先進技術をわが国にもたらしました。また同年6月、帝国人造絹糸(現帝人株式会社)取締役、昭和9(1934)年に同社長に就任。昭和12(1937)年には、帝人1社で当時のフランス一国の全生産量を凌駕するだけの規模に育て上げ、「日本化繊工業の父」と呼ばれるようになりました。



米沢工場の紡糸室

また戦後は帝人会長、日本化学繊維協会会長も務め、GHQ(連合国軍総司令部)とともに、わが国繊維産業の復興に尽力しました。人絹製造法を研究した化学者、発明家として名を馳せた久村は、昭和3(1928)年、48歳で独創的な人絹発明の功績により藍綬褒章を受賞するなど、輝かしい功績を残しましたが、昭和26(1951)年9月1日、70歳で死去しました。

その後、久村清太の功績を記念して、昭和29(1954)年に財団法人である帝人奨学会(現公益財団法人帝人奨学会)が設立されました。本奨学金制度は、卒業後の進路に義務的拘束を加えない、という点で当時としては画期的な制度であり、創設以来60年間で、既に1,540名を超える理工学系大学院生の研究生活を支援し続けています。



パリ出張中の久村清太(1918年)。海外の先進技術を貪欲に吸収した。

その生涯を絶えざる研究と革新に費やした久村清太の志は、「若き科学技術者を育成する」という形で、いまなお現代に引き継がれています。



「2013年度帝人久村奨学生交流会」の様子。久村清太の志は、今もなお若い世代に引き継がれている。

# 60周年に寄せて

皆様から頂いたコメントを掲載させていただきます



## 根岸 英一様

第5回生(1957年)：2010年ノーベル化学賞受賞 米国パデュー大学特別教授

帝人奨学会創設60周年、誠にありがとうございます。私が学生生活を送っていた1950年代の日本はまだ戦後復興の最中でしたが、その頃、大学の研究室で「帝人久村奨学生制度」の存在を知り、幸運にもパスすることができました。卒業後は、帝人に少しお世話になったのち、フルブライト奨学生に採用され、米国での研究生生活を始めることとなり現在に至っています。

歴史を紐解くと、世界でいま隆盛を極め繁栄しているのは、化学やサイエンスに多くのお金を使ってきた国だと思います。ですから、100年、200年という単位でみると、研究することで科学技術が発展し、その結果豊かな社会を築くことができると考えざるをえません。このように考えると、研究というものは、国家レベルでのサポートが絶対に必要ですし、それを補完する帝人奨学会のような民間財団が研究者のサポートをすることは、科学技術の発展にとって極めて望ましいと考えています。

この点で60年の長きにわたって「向学心を持ち、科学に志す若者」を経済的に支援してきた帝人奨学会の活動に対して、心より敬意と感謝の念を表したいと思います。

私の場合、幸いにして数十年に亘る研究が認められノーベル賞を受賞することができましたが、研究を続けたい気持ちはまだまだありますし、今後は志を同じくする若い人に、私が持っている大きな種のようなものを譲っていきたいと考えています。「志ある研究者」を応援する立場として、今後も帝人奨学会のさらなる発展と奨学生の皆さんのご活躍を祈念しております。

国武 豊喜様 第5回生(1957年)：北九州産業学術推進機構 理事長 九州大学 名誉教授 元帝人奨学会 監事

帝人奨学会60周年おめでとうございます。心よりお慶びと御礼を申し上げます。55年前、大学4年生でいただくことになった貴奨学金は私の人生を決めました。大学院修士課程2年になったとき、指導教授であった故秋吉三郎先生(元帝人常務)に米国の大学院で学ぶことを勧められました。慌ててフルブライト留学生の試験を受け、辛うじて採用されて渡航旅費を得ることになりましたが、後に残す母と二人の弟の学費やアメリカでの生活費が問題でした。幸いにも、奨学金を延長していただけることになり、研究助手としての給料と合わせて目途が立ち、ペンシルバニア大学の博士課程を修了することができました。その後、九州大学へ戻り長く楽しい研究人生を送ることになりました。感謝の念で一杯です。

筏 義人様 第6回生(1958年)：京都大学 名誉教授

帝人奨学会について、私が思い出すのはただ一つです。終戦後十年しか経ていないわが国もわが家も貧しく、学費の負担は非常に大きいものでした。当時の日本育英会の条件は極めて厳しく、さりとてアルバイトで全学費を稼ぐのは難しいため、進学を諦めかけていました。その時、桜田一郎指導教授から帝人奨学会の推薦を頂いたのです。久村奨学生決定を聞いた日の嬉しさは今も決して忘れられない思い出です。帝人奨学会には本当に感謝してもしきれません。

松村 竹子様 第10回生(1962年)：(有)ミネルパライトラボ 取締役 奈良教育大学 名誉教授

60周年をお祝い申しあげます。当時女子学生としては初めて、貴奨学会の奨学生としてお世話になりました。当時としては幸いなことに奈良教育大学に職を得て、教育・研究に日々を過ごしました。定年後、研究の発展上から大学発ベンチャーを起業し、開発研究の日々を過ごしております。貴奨学会のご発展をお祈りいたしております。

宮村 鐵夫様 第19回生(1971年)：中央大学理工学部経営システム工学科 教授

60周年を迎えて心からお祝いを申し上げます。変動の激しい中で、奨学のご支援を長きにわたり継続されていることが、我が国の科学及び技術の発展に大きな貢献をされていると思います。今後とも末永く継続されることを願います。

高濱 洋介様 第31回生(1983年)：徳島大学 疾患プロテオゲノム研究センター長・教授

帝人奨学会の創設60周年を心よりお慶び申し上げますとともに、多大なるご支援を賜りましたことを改めまして心より感謝申し上げます。父の早世などで困難を抱えていた私が無事に大学院を修了することができ、アカデミアでの研究職を続けていくことができましたのも、ひとえに貴奨学会のおかげです。本当にありがとうございます。

神代 暁様 第32回生(1984年)：(独)産業技術総合研究所 ナノエレクトロニクス研究部門 研究グループ長

60周年心よりお祝い申し上げます。大学院修士・博士の5年間、私が研究に専念できましたのも、貴奨学会のおかげと感謝しております。私の学生時代に比べ現代は、景気低迷から来る企業の研究投資額の縮小や、研究職ポストの削減に伴い、若き研究者の卵達にとって受難の時代であると感じます。このような時代にこそ、科学技術を切り拓いて社会貢献を目指す若人を支える、貴奨学金制度の意義がひととき輝くと感じます。

中島 賢治様 第42回生(1994年)：佐世保工業高等専門学校 教授

貴会60周年おめでとうございます。20年前、貴会奨学生としてご採用いただいた折には、大学研究室の担当教授が私の合格を驚かれ、教授から貴会のステータスを切々と説いていただき、研究者としてがんばれとお声かけていただいたことを覚えております。これまで研究報告会のご案内をいただきながら音沙汰なくご無礼いたしておりましたが、貴会60周年の一助に参加させていただきたいと存じます。ご盛會を祈念いたします。

鈴木 進補様 第42回生(1994年)：早稲田大学 基幹理工学部 教授

このたびは、帝人奨学会60周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。学生時代は、奨学金をご支援いただき、それを資金として学位取得後に海外(ドイツ)での長期間(約8年)にわたる研究生生活をスタートさせることができました。現在国内に勤務しておりますが、当時の貴重な経験を生かして特色ある教育・研究を推進しています。この場を借りて御礼申し上げます。今後ますます帝人奨学会が発展し、次世代を担う若手研究者が育成されることを願っております。

関 紗由里様 第59回生(2011年)：国立感染症研究所 エイズ研究センター／東京大学大学院 医学系研究科

奨学会創設60周年を迎えられたこと、心よりお祝いを申し上げます。大学院卒業後は研究者を目指し海外留学したいと考えています。奨学会OBに卓越した研究者の方々がたくさんいらっしゃるのですが、いつも心の支えです。これからもよろしく願いいたします。

稲垣 嘉彦様 第60回生(2012年)：早稲田大学大学院 創造理工学研究科 建設工学専攻

この度は創設60周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。奨学生として採用していただいたことが、研究者の道に進むための大きな原動力となりました。将来的には貴奨学会に恩返しができるような研究者になりたいと思います。

陳璞(Chen Pu)様 第61回生(2013年)：東京大学大学院 農学生命科学研究科

Congratulation to Teijin Scholarship Foundation 60th Anniversary! Thanks Teijin for the 60 years remarkable contribution to our society and its achievements really changed our society greatly. Teijin Scholarship was founded with the mission to foster the young scientist and talent who can serve our society and give people better life. Teijin's support inspired generation to generation to make a difference. We look forward to a continuous fruitful future for both Teijin scholarship foundation and our young generation.